

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400146		
法人名	株式会社 さくら		
事業所名	グループホーム稗原 きんもくせいユニット		
所在地	島根県出雲市稗原町1724番地		
自己評価作成日	平成31年2月7日	評価結果市町村受理日	平成31年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/32/">http://www.kaigokensaku.jp/32/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ケーエヌシー
所在地	島根県松江市黒田町40番地8
訪問調査日	平成31年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の家族や知り合いが来所しやすい雰囲気作りを大切にしています。</li> <li>・企業理念は「・共に喜び・共に悲しみ・共に生きる～地元地域に密着した施設づくりを目指します～」です。</li> <li>・地域行事には積極的に参加し地域の住民との関係を密にしています。</li> <li>・料理に力を入れていて全て手作りを提供しています。また地域に方々からたくさん野菜を頂いており、旬の食材を普段の食事やおやつに利用しています。</li> <li>・四季に応じて様々なイベントを企画、実施しています。・職員に対し時期に応じて研修を受講させより良いケアが出来るよう努めています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、中山間地域にあって小学校等社会的資源が隣接する環境のなかで、地域の行事に積極的に参加し、旬の食材に野菜を地域の人から頂く等の交流を行い、地域の一員として、施設運営に努めている。職員は、ご利用者の思いや意思の情報をカンファレンスにより共有し、内部研修によってケアサービスの意欲を高めながら理念の実践に努めている。ケアプランは、ケアサービス提供に浸透し、モニタリングはその都度行っている。ヒヤリハットは事故報告書で振り返り管理者コメントにより再発防止の意識は共有されケアサービスを提供している。四季折々には手造り弁当を持っての外出行事があり、食事も手造りに特化され、盛り付けは工夫されゆったりとした雰囲気でお食事を楽しんでいる。職員は来訪者の視点に立ち丁寧に応接して来訪者対応の工夫をしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に意識できるよう玄関に理念を掲示している。利用者目線のケアをするよう心掛けている。	共に喜び、共に悲しみ、共に生きるという理念は玄関に掲示され、管理者と職員は、利用者視点から理念を共有してケアの実践を心掛けている。カンファレンスは理念を掘り下げて話し合いケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の幼稚園生や小学生の訪問が度々ある。地域行事にも積極的に参加し交流を深めている。	普段の暮らしのなかで、近くの幼稚園児、小学生生徒と交流をする機会は多くあり、地元行事には積極的に参加をして又、野菜を頂くなど地域住民とふれあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を借りて地域に対して情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表者、利用者家族、第三者委員会、行政職員等の方々と定期的に開催している。現在の利用者の普段の様子や容体などを把握していただき、施設に対する理解や支援方法を発信している。	運営推進会議のメンバー自治会長、市役所、包括支援センター、入居者家族の出席者からは利用者へのサービス提供に助言者となって協力が得られるよう、事業所の取り組みや内容を双方向的に話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今まで密な協力関係はとっていなかった。	現在は出雲市担当者の所には頻繁にでかけて、介護認定更新などの機会に事業所の取り組みや利用者のニーズなどの具体を伝えて連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月開催しその都度個々の事例に関して事業所内で検討を行い、身体拘束をしないケアを目指している。身体拘束をしなければならない場合は切迫性、非代替性、一時性の要件を家族に説明し了承を得ることとしている。	身体拘束委員会を開催し身体拘束をしない理解と実践を行っている。実践はケアの事案についてカンファレンスを頻繁に行って拘束は駄目との意識を共有している。玄関の施設は日中はされず夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、家族との関係を密に持ちコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外にて研修で学ぶ機会を持ち状況に応じて適した制度利用が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、改定時には説明の機会を設けている。退所時にも疑問に対しきちんと答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人や家族から意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。意見の内容によっては会議を行い改善に努めている。	利用者の視点にたつて、家族の来訪は歓迎して良い雰囲気をつくり、話しやすい時間をつくり利用者や家族の意見は丁寧な対応で傾聴し引き出して、カンファレンスを行って運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務のカンファレンスや職員会議などで意見や提案など取り入れている。	安全安心な事業所の運営を職員は共有しながらカンファレンスや職員会議での意見や提案について代表者は傾聴し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるような職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修、各種訓練、地域の健康セミナーなど学ぶ機会を多く持つよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協会に参加する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人の要望を具体的に聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の前、入所時に家族の話を傾聴するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの話、情報提供書を活用し、ケースに合った支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も職員が行うのではなく、日常生活の各場面で利用者と共に行動するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族と連絡を取りながら、受診の付添や買い物など協力しながら行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の方が来所しやすいような雰囲気作りを努めている。	家族や地域に暮らす友人等の事業所訪問が継続され交流が途切れないように来所時の対応は丁寧なマナーを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を把握し、席の配置に気を配ったり、必要に応じて職員が間に入りより良い関係性が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの関係性を大切に、臨機応変に対応している。また施設の行事に声を掛け参加していただいている例もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で日ごろの思いや希望を聞き職員間で情報共有している。また、ご家族様からの意見を聞き希望や意向を把握するよう努めている。	日々のかかわりの中で職員は声を掛けたりタブレット使用により、利用者一人ひとりの思いや希望等を把握し、家族からも情報を得て利用者の意向を共有し、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や家族からの話を参考にしている。コミュニケーションが取れる方は本人の会話の中からこれまでの生活歴を聞き出し信頼関係を構築している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の時間の使い方、出来る事出来ない事、気付いたことを職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時のミーティング、日々のカンファレンス、職員会議などで意見を出し合っている。	日ごろのかかわりの中で利用者や家族の思いや意見の傾聴に努め、職員会議、朝礼時のミーティングではヒヤリハット、事故報告についてカンファレンス行い意見を出しいあい介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った個別記録を全員で行い、特に知ってほしい事は送りノートにも記入し、毎日チェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	髪を染めたいと言われれば美容院にお連れしたり、お墓参りに付き添ったり、病院への通院など可能な事は希望に添えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のミニデイサービスに参加したり、地域の方のご厚意に甘え、栗拾いに行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と密に連絡を取り合い良い関係性を築くようにしている。本人や家族の希望がある場合は、以前からなじみの医療機関への受診を続けている。	看護職2名を配置して、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行ない受診支援は救急時も近隣の協力医との連携を築いている。又、利用前からのかかりつけ医での医療も受けられるよう関係を密に結んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろから情報や気づきを看護師に報告、相談している。協力医療機関の看護師にもよく相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、病院関係者から情報を得ている。退院前は必要に応じて病院側のカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については家族と話し合いの場を設け今後の支援内容の説明、家族の要望などを聞き対応する。必要に応じて話し合いの場に協力医にも参加していただく。	看取りは数名の方を看取り家族の協力体制により職員は体験を重ねている。ほとんどの利用者は看取りを希望し、協力医が中心となって終末期の支援に努めている。看取り介護マニュアルは作成されて医師、職員は終末期の連携を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルをいつでも見れるような場所に置いている。地域が行う応急手当の研修に毎回参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。地域の消防団や地域の方にも時々参加して頂いている。	年2回の避難訓練は自治会や消防団の協力も得ている。避難経路を掲示し居室の入口は氏名を表書き介助に必要な車椅子を裏書きの名札を吊るし誘導を工夫、川が近く水害時の心配も職員会議で取り上げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ、対応する姿勢など意識して対応している。施設内研修にて講師を招き研修している。	言葉かけは、名前で呼びかけ、同じ目線の高さでアイコンタクトをとり言葉は選び、身振りや手振りで会話は気持ちよくできるように行い、利用者の尊厳を尊重し、接遇研修も講師を招き行い、人格尊重を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言いやすいような関係性を築くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの内容、入浴の頻度、時間の使い方など利用者の意見を取り入れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる片は衣類を選んでいただいている。理美容に関しては本人の希望があれば希望する店に行ったり、美容師を呼んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に合わせて作業を手伝っていただいている。スイカが食べたい、おはぎが食べたいなど希望があれば次の日に提供するなど食事が利用者様の楽しみになるよう柔軟に対応している。	調理、盛り付け、片付け等は利用者個々の力を発揮し共に行い、希望の食べ物も調理し、季節の食材も用いて、好きな物は把握し、味等に拘り食欲を高め、食事には力をいれて又、畑で収穫の芋の調理も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の量は毎日チェック、記録し情報共有している。その人に合った食事量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、介助を行っている。自分でされる方、全介助がいる方、それぞれに合ったケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人でトイレにいけない方、尿意の訴えがない方でも定期的にトイレ誘導をし、出来るだけトイレに行く習慣を失わないよう支援している。	尿意のない利用者は時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄が自立できるように支援している。トイレ誘導が自立している利用者は誘導チェック表は使わないでトイレに行く習慣づけの支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日ごろから野菜の多い食事を提供している。人によっては牛乳や乳酸菌飲料、ヨーグルトなどを摂ってもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を作っているが、本人様の希望に応じて臨機応変に対応している。	入浴表の時間帯に応じた入浴希望を確認して、生活習慣に合わせた入浴が行われ、夜間入浴も支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じ、無理せず休憩していただいている。眠れない時はホールで職員と一緒にテレビを見たり、雑誌を読んだり等、なるべく本人の気持ちに添って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば必ず送りノートに記入し情報共有をしている。薬による体調の変化にも職員同士声を掛けあい注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯物を干す・仕分ける・畳む等の作業を個々の能力に応じて手伝っていただいている。また、希望に応じて利用者様と買い物に出かけたりなど、出来る限り希望に添った対応を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の機会を作り気分転換してもらうよう努めている。花見や紅葉など季節の行事にはお弁当を手作りして出かけている。また寝たきりに近い方でも体調を考えながら外出するよう努めている。	花見の季節や紅葉の季節は手造り弁当を持って外出する行事を行い、遠出の外出や初詣の外出等も積極的に行い、介護が重度に近い利用者は車椅子等を利用し体調に合わせて外出支援を行なっている。外出行事は月1回行い、庭での外食も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状況を把握し、それに見合った使い方を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応している。また帰宅願望や家族様の都合など状況に応じて対応できない時は話し相手になったり他の利用者様と一緒に作業したり、気を紛らすよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や飾り物をし、季節感を感じていただくようにしている。またクラシック音楽を流したり、花瓶に良い香りのする花を生けたり、五感に良い刺激を働きかける工夫をしている。	フロアの飾りつけやソファの配置は、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうように配慮され、共用空間は季節感のある行事写真や絵画等を展示して、流れてくるクラシック音楽や花瓶の生花は五感を刺激して、利用者の暮らしの雰囲気工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなどなど場面転換が出来るスペースを設けている。また話の合う方が集まれるよう席の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込んでもらったり、家族との写真や昔自分で作られたもの等を飾ったり、心地よい空間になるよう努めている。	居室は使い慣れた家具をもちこみ、作品など好みのものを飾り、それぞれの利用者の居心地のよさが配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室の表示を分かりやすくしてある。浴室には暖簾をかけ誘導しやすくなっている。居室が覚えられない方には名前以外にも目印をつけたりしている。		